

ふくらみ雛

及川ふみ

戦線のお父様方から軍務のお忙しい中をわざわざ、お便りいたゞいて、いつも感じる事は、内地のお子さんたちが變りなく元氣に楽しく遊んでゐる様子を大層およろこびであると同時に、又これが何よりの御安心の御様子でもあります。

こんなごきからしてもこの緊張したうちにも三月三日の節句なごは、私共の出来るだけの心づかひで、時局柄手許にある材料で何さか工夫して幼児たちを喜ばせるお雛祭りの行事をしたいものであります。

模造紙で作つた折紙のお雛様、新聞粘土で作つたお雛様、古はがきのお雛様なご手輕に出来る數々のおひな様が思ひ浮ばれます。

手廻しよく準備をすればまだ、材料に使へるものがいろ／＼あります。人手の足りない今日この頃、家庭行事の一つの手傳ひの氣持をも充分にもつて幼稚園ではこの三月三日の節句の樂しさを幼児たちに十二分に味はせたいものであります。

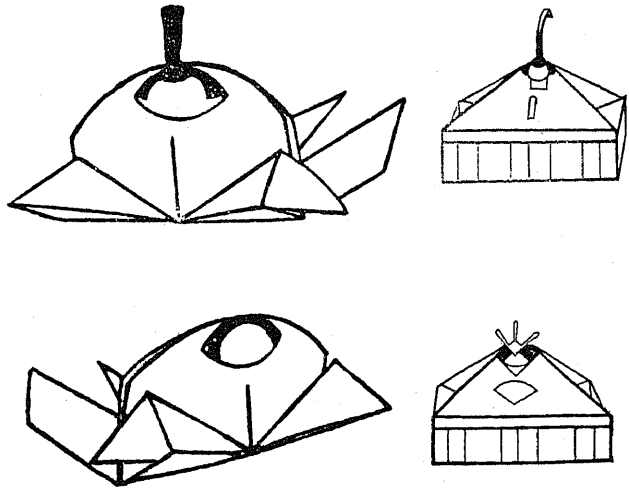
こゝ十數年來、年々に新らしく作つて見たお雛様の數も相當に多いのであります。出来るだけ容易に作れるもの、材料に費用のあまりかゝらないもの、おもむきのあるもの、なごゝ作るまきにいろ／＼の條件を考へながら工夫をして見たのであります。新らしくお考へになる手作りの雛の御参考に二三出来上り圖を掲げておきました。

今年古はがきで「ふくらみ雛」を作つて見ることに致しました。

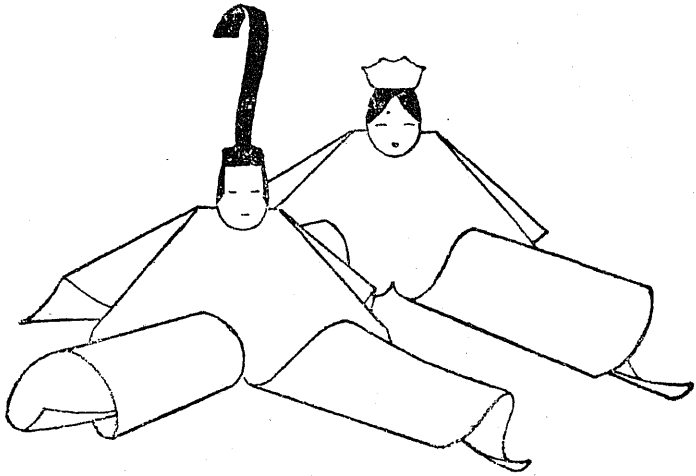
出来上り圖で大體の作り方も御了解になる事と思ひますが、

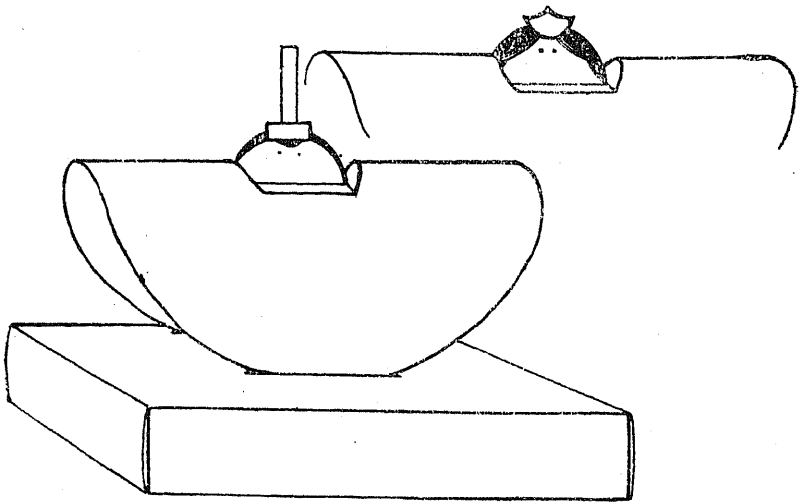
直徑九センチ、三二センチ半の二重圓を書き、九センチの外圓の前後に幅二センチ、長さ二センチのサシヨミシロをつけておく。二センチ半の内圓は、後の半圓さおり目幅二ミリ、つまり後の半圓ささらにその左右二ミリ多く切りぬく。切りぬいた後の半圓は二ミリ幅に一段折つて立て、顔にする。切り落した餘分の紙から頭の飾りをさるゝことにする。

臺は端書全部のうち三方を二センチ幅にきつて高さにする。臺の前後一センチのところに二ヶ所中央二センチ幅のサシコミを入れるための切り目をつけておく。
 臺の上は綠色に、臺の周圍は赤、黄、緑の三色にぬりわけておく。



雛には適當の色をぬり、或は模様をかゝせるのもよいのであるが、又千代紙を古はがきの上にはるこ一段さ美しいお雛様を作りあげる事が出来る。





保育實習科新卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は昭和十七年三月、左の二十四名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます。皆それ〴〵適當な働き場所を得て、斯界の爲熱心にその職に従事し度い希望に燃えてゐます。

氏名	出身校	生年月日
赤松 歌子	東京女子高等師範學校 附屬高等女學校	大正十二年六月二日
非染 貞美	東京女子高等師範學校 附屬高等女學校	大正十二年三月二十九日
石原 貞子	釜山公立高等女學校	大正十三年三月十七日
今井 幹子	東京 雙葉高等女學校	大正十二年九月七日
上澤 多恵子	東京府立第十高等女學校	大正十三年九月十三日
大島 多喜子	石川縣立金澤第二 高等女學校	大正十三年一月二十二日
太田 峰子	東京府立第三高等女學校	大正十三年一月二十三日
片岡 靈恵	山形縣立第一高等女學校	大正十二年四月三十日
河村 節	東京府立第八高等女學校	大正十二年七月二十日
藤原 萬里子	東京府立第十高等女學校	大正十三年一月一日
酒井 尚子	名古屋市立第一高等女學校	大正十二年二月二十六日
志治 梅子	山梨縣立甲府高等女學校	大正十四年一月十四日
柴田 俊子	愛知縣立第二高等女學校	大正十二年四月六日
進藤 光子	東京府立第五高等女學校	大正十三年三月四日
高橋 紀子	東京 白百合高等女學校	大正十三年二月十一日
代島 かず	北海道廳立函館高等女學校	大正十三年十月十六日
中井 富佐子	東京 川村女學校	大正十一年九月九日
中島 美子	名古屋市立第三高等女學校	大正十三年二月二十二日
中村 滿智子	千葉縣立佐原高等女學校	大正十三年十月六日
遠沼 國子	東京府立第六高等女學校	大正十三年九月二十九日
藤山 蓮子	東京府立第十高等女學校	大正十三年一月二十三日
宮本 美子	群馬縣立前橋高等女學校	大正十三年八月十六日
山口 光子	東京府立第三高等女學校 山形縣立第一高等女學校	大正十一年五月十二日 大正十一年八月二十二日